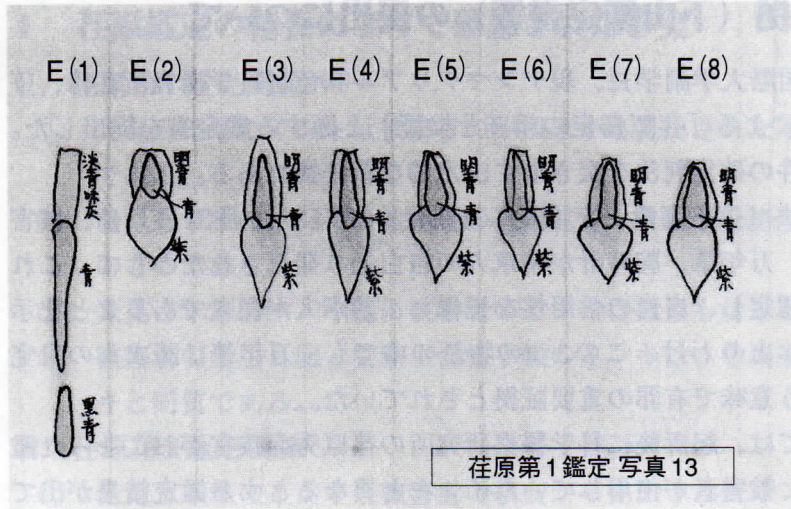


荏原鑑定 (ペーパークロマト) の検査結果を検証すれば、

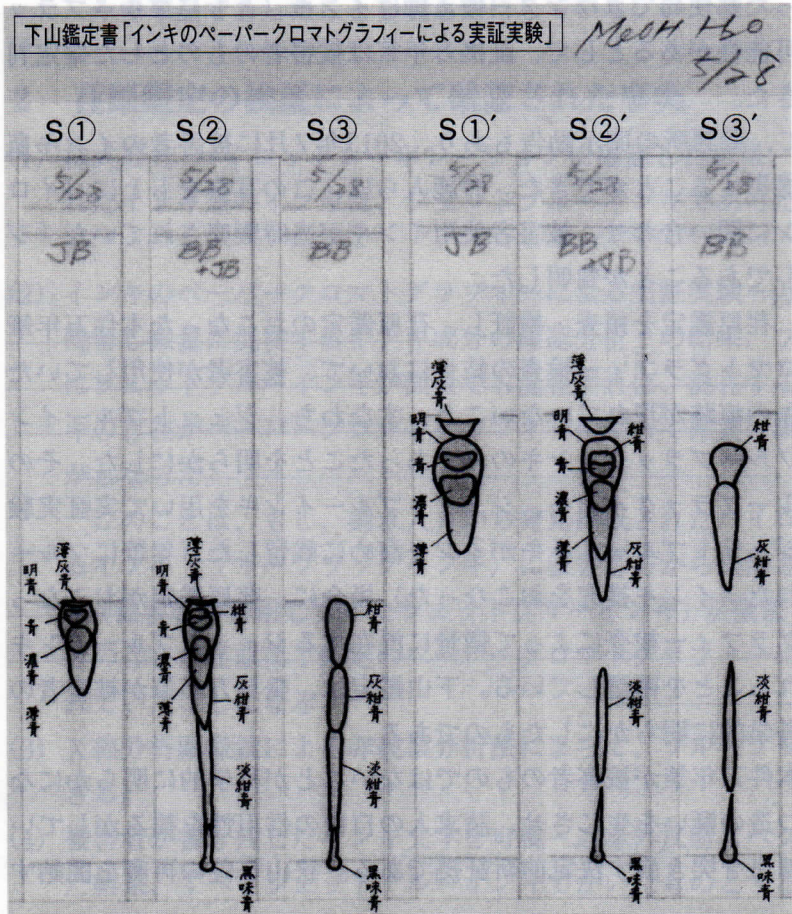
科警研・荏原第1鑑定
の検査結果



- E(1) : 発見万年筆 (証拠万年筆)
- E(2) : 被害者のインキ瓶のインキ
- E(3)~(6) : 被害者の日記文字のインキ
- E(7)~(8) : 被害者の手帳の文字のインキ

発見万年筆が被害者の万年筆なら、被害者が使っていたジェットブルーインキの成分が実証実験の混合インキの場合(S②やS②')のように検査結果に現れるはずだが、荏原第1鑑定の発見万年筆のインキの検査結果(E(1))にはジェットブルーの成分が現れていない。

下山鑑定の実証実験の結果(展開剤Mの場合)



(写真はいずれも弁護団が提出した鑑定書より)

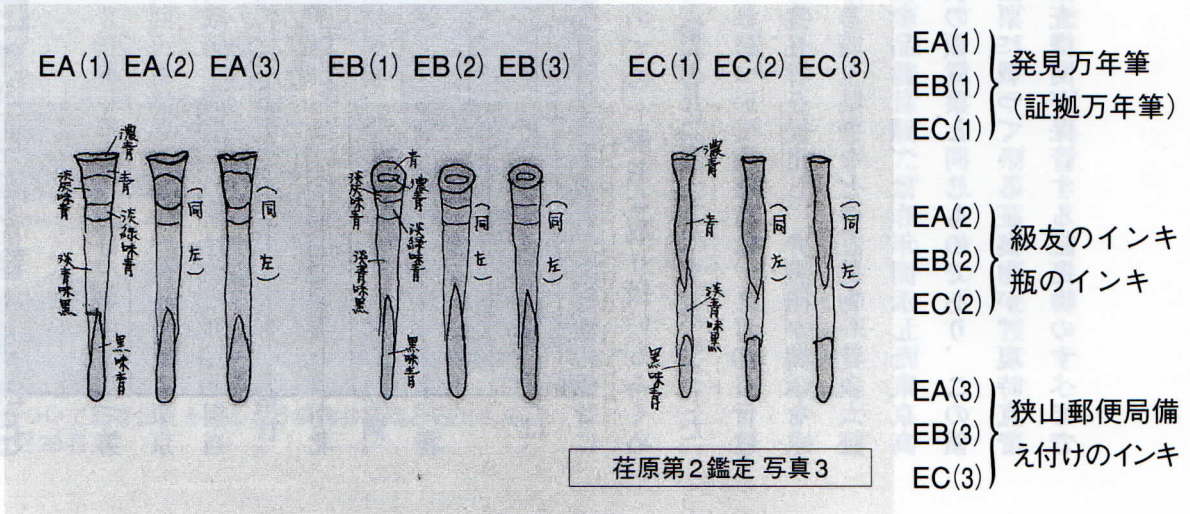
- S① : JBインキ
- S② : BBインキ+JBインキ
- S③ : BBインキ
- S①' : JBインキ
- S②' : BBインキ+JBインキ
- S③' : BBインキ

図12 展開剤Mにおける展開距離60mm(左側3枚)と100mm(右側3枚)の検体JB、BB+JB、そしてBBの各クロマトグラム

JB=ジェットブルー
BB=ブルーブラック

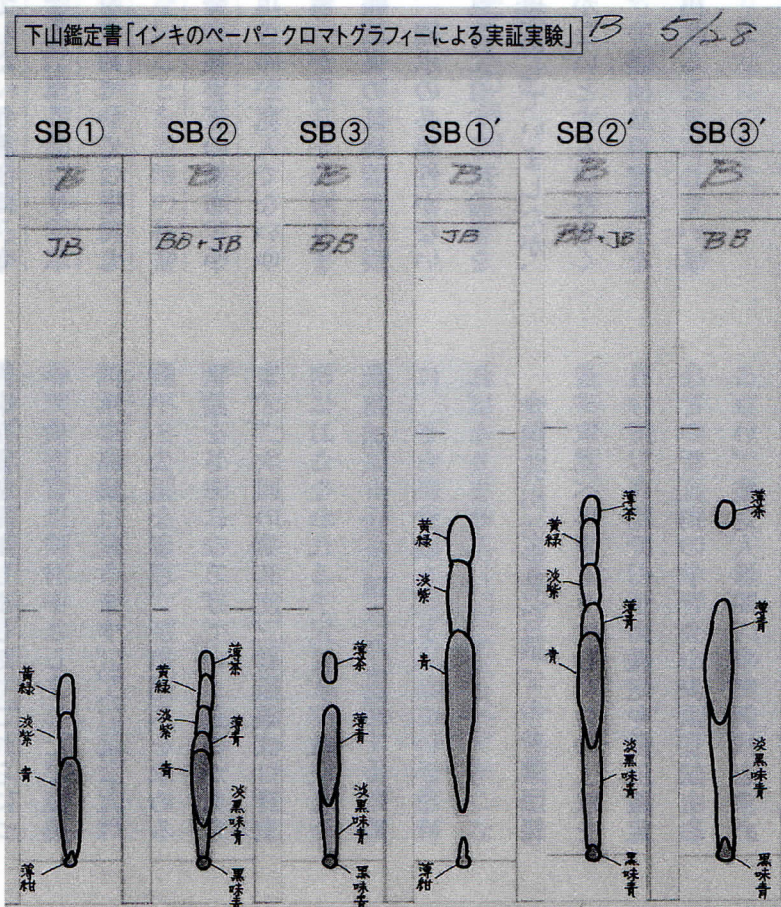
証拠の万年筆が被害者のものでないことは明らか

科警研・荏原第2鑑定
の検査結果



荏原第2鑑定は発見万年筆、クラスメートのインキ瓶のインキ、狭山郵便局備え付けのインキを3つの展開剤で成分を分離し、どの展開剤でも同じ分離をした（「同左」と書かれている。つまり、発見万年筆のインキは級友や郵便局のインキ（ブルーブラックインキのみ）と同じであったことがわかる。

下山鑑定の実証実験の結果（展開剤B'の場合）



発見万年筆が被害者のものであれば、JBとBBの混合インキなのでSB②やSB②'のようにJBの成分が現れる。EA(1)EB(1)、EC(1)にはJBの成分が現われていない。

図13 展開剤B'における展開距離60mm(左側3枚)と100mm(右側3枚)の検体JB、BB+JB、そしてBBの各クロマトグラム

JB=ジェットブルー
BB=ブルーブラック